

山野草・コケの観察と放射能測定

森本晶子・染木泰子
大隅晶子・伊井一夫

サンプル採取地： A)佐須 滑 菅野宗夫氏宅周辺 B)佐須 滑 A氏宅周辺 C) 佐須 虎捕 山津見神社周辺 D) 佐須 牧草地
E)小宮 萱刈庭 F) 深谷 あいの沢 G)須萱 H)前田 豊栄 I)飯樋町

ユウガギク(B2)
2012/09/22
4,756Bq/kg



オモト(A1)
2012/09/23 葉 7,038Bq/kg
2013/09/18 葉 1,523Bq/kg
2013/09/18 実 2,693Bq/kg



フキノトウ(A1)
2013/03/23
954Bq/kg



ミヨウガ(A1)
2013/08/31
根 812Bq/kg
葉茎 398Bq/kg



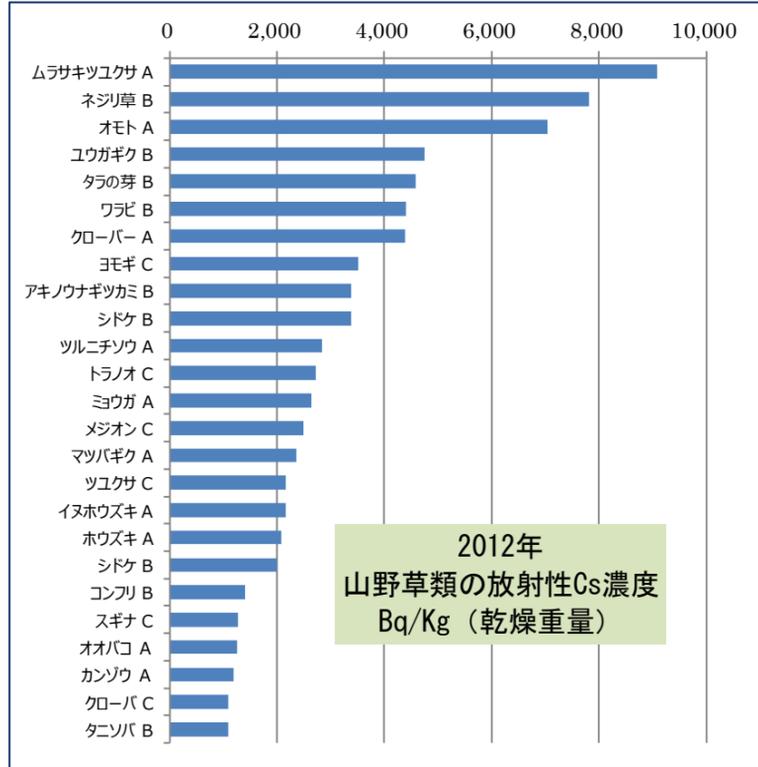
ウド(A1)
2013/06/09
1,198Bq/kg



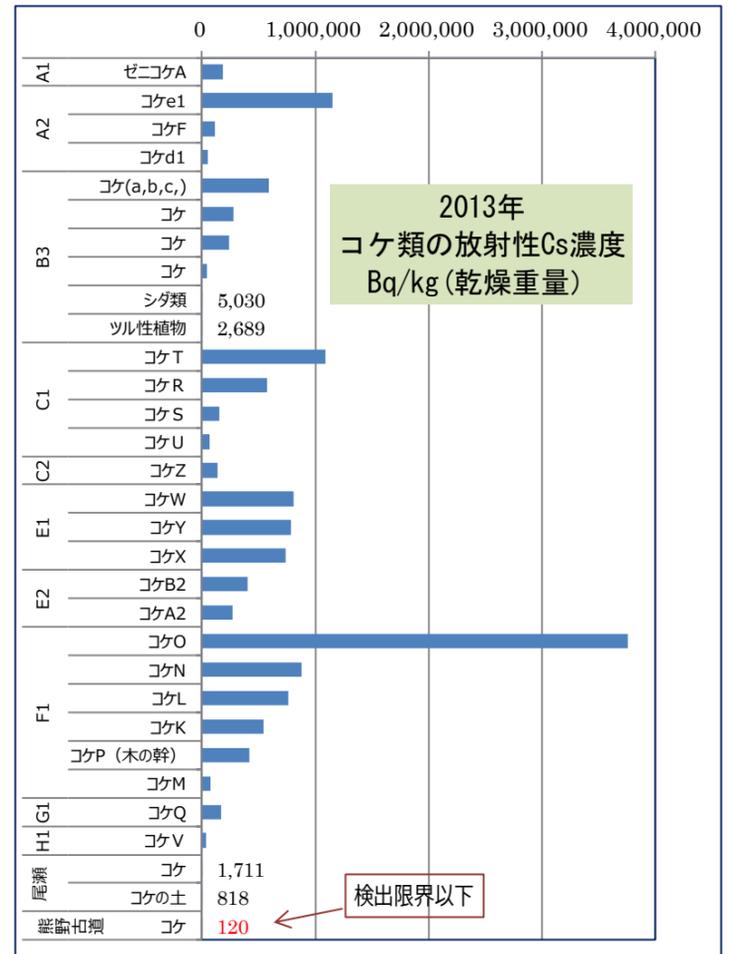
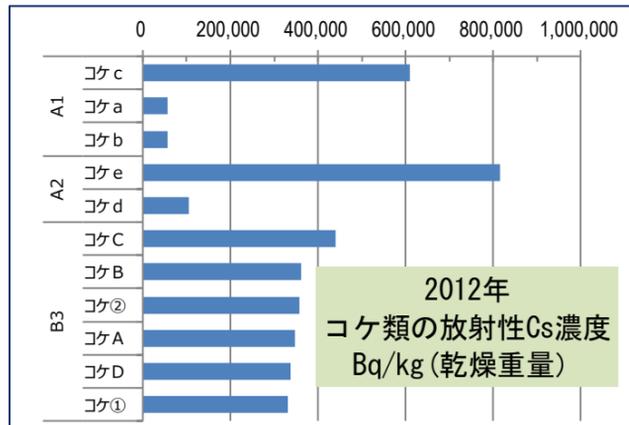
ムラサキツユクサ(A1)
2012/09/23
9,090Bq/kg



イヌホオズキ(A2)
2012/09/22
2,160Bq/kg



コケc(A1)
菅野宗夫宅裏古い側溝の側壁
2012/11/04
609,000Bq/kg



コケd(A2)
菅野宗夫宅前
水路上の橋
2012/11/04
104,000Bq/kg



コケe(A2)
菅野宗夫圃場脇道路
2012/11/04
815,000Bq/kg



コケO(F1)
2013/09/21
3,758,000Bq/kg



採取した中で最も放射性Cs濃度が高かった

コケの放射能は他の野草と比べ、
二ケタ高い値を示す

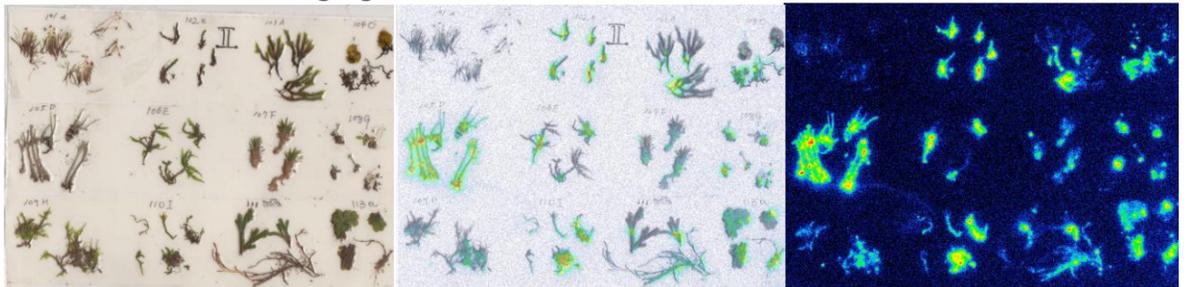


コケD(B3)
A氏宅の裏山際の岩
2012/08/19
336,000Bq/kg

B3の岩の様子(コケA,B,C,D採取地点 2012/04/20撮影)



コケの IP 画像 (Imaging Plate : 放射線の吸収量に応じて発光する蛍光体を用いた可視化技術)



東京大学大学院農学生命科学研究科放射性同位元素施設 放射線植物生理学研究室 小林奈通子助教の協力による

- ① 山野草の放射能汚染の度合いは、その種類や採取する場所により、異なるが、一年の経過で、おおむね半分以下に減少した。
- ② コケが示す放射性セシウム濃度は、山野草と比べると、桁違いに大きい。また、年数を経ても高い放射能値が維持されるように見える。これは、コケが、山野草のような地下に伸びる根を持たず、付着した処(土、木の幹、石、コンクリート)で、周囲から養分を集め、保持する性質を持つからだと考えられる。放射能汚染を知る手段として、コケが使えるかも知れない。実際、尾瀬で採取されたコケは、1,700Bq/Kgで、飯館村より非常に低いが、汚染が認められた。しかし、熊野古道で採取したコケは、検出限界(120Bq/Kg)以下であった。
- ③ 飯館村は花が素敵で山野草の宝庫であり、これを飯館村の再生に生かす活動も視野に入れたいと思う。